

# おおさか社会福祉史研究会

## ニュースレター

2021年2月28日発行  
Vol. 8

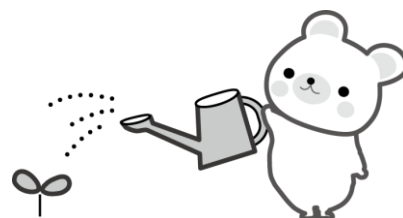
### 〈目次〉

研究会報告（第45回～第53回）

2016年度・2017年度会計報告

事務局からのおしらせ

2018年度会計報告



## 研究会報告

### 第45回 定例研究会

#### 「社会福祉史から見た大塩思想」

報告者：樟蔭女子大学名誉教授 森田 康夫氏

【2016年9月24日(14:00～17:00)、場所：西成市民館、参加者：12名】

もともと与力であった平八郎は、隠居後に陽明学を学び、知行合一、致良知、万物一体の仁を信じて私塾・洗心洞で子弟を教育した。この頃は寛政異学の禁の影響が続いており、朱子学がもてはやされていたが、大塩は朱子学者からの不毛な論戦には、一線を画していた。飢饉に際し、私財を処分して救済活動を行うが、武装蜂起によるしか根本的解決はないと考え、天保8年（1837）蜂起した。しかし、密告によって大坂町奉行所の知るところとなり、蜂起当日に鎮圧された。このような大塩の思想と行動は、現代の社会福祉、特に民間のボランティアな福祉活動に通じる純粋な利他精神とその直接的行動化に通じるものがある。

### 第46回 定例研究会

#### 「『日本ボランティア・NPO・市民活動年表』の作成に携わって」

報告者：大阪ボランティア協会ボランティアリズム研究所 牧口 明氏

【2016年11月28日(14:30～16:30)、場所：西成市民館、参加者：8名】

『日本ボランティア・NPO・市民活動年表』編纂の中心人物のお一人である牧口氏より、編纂経緯や用いた手法、作業の中で困ったことや意外な発見、こぼれ話などについてお話を頂いた。その中で、「ボランティアリズムの6類型」として、①告発・抵抗のボランティアリズム、②連帯・共生のボランティアリズム、③変革・創造のボランティアリズム、④自治・協働のボランティアリズム、⑤生命尊重・平和のボランティアリズム、⑥育成・学習のボランティアリズム、の提起とそれらの具体的事例についても示していただいた。その後の議論では、「市民性をどのように理解するか」といった大きなテーマのほか、各参加者の分野別の動向についても意見があり、議論が深まった。

## 第47回 定例研究会

### 「証言・戦後大阪の社会福祉実践史・第12回 渡久地歌子先生」

お話: 社会福祉法人 都島友の会 理事長 渡久地 歌子氏  
【2017年1月28日(14:00~16:30)、場所: 石井記念愛染園 西成市民館、参加者: 10名】

都島友の会創設者である比嘉正子の生涯とあゆみについて、ミード神学館、北市民館および志賀志那人との関わりなどを交えた報告ののち、都島友の会の成立過程、現在の事業について資料を用いてお話いただいた。都島友の会は、昭和35年には全国で初めて0歳児保育を始めるなど、「乳児保育の草分け的存在」となった。現在も、高齢者など「横のつながり」を大切にしながら、志賀志那人および比嘉正子の思想を継承することができている背景には、ミード社会館や沖縄パプテストとのつながりがあるのではないかとのお話も伺えた。

## 第48回 定例研究会

### 「キリスト教ミード社会館とバプテスト神学校の歴史」

報告者: 日本福祉大学 永岡 正己氏  
【2017年3月25日(14:00~16:30)、場所: 石井記念愛染園 西成市民館、参加者: 12名】

キリスト教ミード社会館は、1908年のバプテスト女子神学校設立に始まり、1918年から社会活動を開始、1923年に基督教ミード社会館が開設される。その後大阪の主なセツルメントの一つとして、また戦後はコミュニティ・センターとして食事サービスなどの開拓的事業を展開してきた。報告では創設から戦後に至る展開過程を、バプテスト教会との関係、ラビニア・ミードやエバリン・キャンプなど宣教師と日本人職員の働き、事業内容と本部との関係、戦時下から戦後の再建・発展の経緯などを述べた。またミード社会館の教育に重点を置いた専門性の強い事業の特質と背景、神学校出身者のこと（比嘉正子など）や100周年記念の共同作業で学んだことも紹介した。報告後、ミード社会館の方々も交えて現在の活動や歴史的意義について話し合った。

## 第49回 定例研究会

### 「証言・戦後大阪の社会福祉実践史・第13回 延原正海先生 大阪水上隣保館の歩みと共に50年—私の実践・研究を振り返って—」

お話: 社会福祉法人大阪水上隣保館 理事 延原 正海氏  
【2017年5月21日(14:00~16:30)、場所: 石井記念愛染園 西成市民館、参加者: 6名】

①「大阪水上隣保館」と出会うまでの生い立ち、②大阪水上隣保館での実践について（1967年~1989年）、③創設者・中村遥先生との10年間（1967年~1977年）のエピソード、④自身の児童養護実践・研究の到達点、⑤大阪水上隣保館の精神とその課題、の5つの項目に沿って経験談やエピソードを数多くお話いただいた。中村遥のことやこれからの児童養護のあり方を通して福祉実践のあり方を教えられた。また、論文や資料についても多数持参いただき、参加者は、当時の光景を思い浮かべながら、お話を伺うことができた。

## 第50回 定例研究会

### 「証言 戦後大阪の社会福祉実践史 第14回 水野洋次郎氏 —大阪の社会福祉労働(組合)運動について—」

お話:元・全国福祉保育労大阪地方本部執行委員長 水野 洋次郎氏  
【2017年7月30日(14:00~16:30)、場所:石井記念愛染園 西成市民館、参加者:7名】

「社会福祉労働者」概念の成立から、日本社会事業職員組合大阪支部の誕生、その後の1960年代の保育、障がい者運動、1970年代の労働条件や施設改善の取り組み、1980年代の福祉保育労働組合の結成、1990年代以後の公的保障を守るための運動の展開について、自身が直接携わられた運動の経験を中心に、具体的な事例を年代ごとに取り上げ、その過程や内容、影響について幅広くお話いただいた。質疑応答では、大阪の福祉労働運動の現状と役割、大学における福祉労働者論に関する教育の弱まりへの危機意識や政治動向との関連、労働組合と福祉労働論の役割など重要な議論がなされた。

## 第51回 定例研究会

### 「証言・戦後大阪の社会福祉実践史・第15回 森本宮仁子先生 『蒔かれし種より—聖和80—／危機と再生の歴史』」

お話:聖和保育園事務局長 森本 宮仁子氏  
【2017年9月30日(14:00~16:30)、場所:石井記念愛染園 西成市民館、参加者:10名】

大阪毎日新聞慈善団が当時の大阪市東成区猪飼野中でセツルメント活動を始めた。まず、1931(昭和6)年に共栄会という組織を立ち上げ、翌年には大毎善隣館という名称にして、本格的なセツルメント活動を開始する。さらに1933(昭和8)年に単親等で働く女性や子どものために保育施設の開設を計画し、大毎保育学園を開設する。大毎善隣館の閉館後、ランバス女学院(後の聖和大学、現在の関西学院大学教育学部の前身)関係者の尽力で鶴橋学園として存続し、戦後の1950(昭和25)年には、聖和社会館となっていく。1982(昭和57)年に新法人聖和協働福祉会が発足し、経営を引き継いだ。幾度も危機があったが、それを乗り越え、再生してきた。その背景にキリスト教信仰に基づくミッションの自覚がある。

## 第52回 定例研究会

### 「生江孝之と関西社会事業——神戸・大阪を中心に——」

報告:龍谷大学大学院 荻原園子氏  
【2017年11月25日(14:00~16:30)、場所:石井記念愛染園 西成市民館、参加者:7名】

生江孝之は、戦前社会事業の代表的人物であり、東京だけでなく、神戸での保育事業をはじめ、関西の社会事業関係者との交流を通してさまざまな影響をもつ人物である。報告では、日露戦争期から1920年代前半の大正デモクラシー期までを取り上げて、①同時代における関西の社会事業関係者にとって、生江孝之はどのような存在だったのか、②生江孝之は関西の社会事業にどのような影響を与えたのか、の2点を中心に論じられた。とくに、生江の神戸婦人奉公会、戦役記念保育会での働きと保育実践に果たした役割、神戸、大阪での交友関係などについて説明がなされた。討論では、生江が大阪の施設でも調査の指導を行っていたことや、大阪と東京の社会事業の特徴など、興味深い議論がなされた。

## 第53回 定例研究会

## 「第一部 大阪社会福祉史研究の動向と課題」

報告者: 日本福祉大学 永岡 正己氏

## 「第二部 総会」

【2018年3月24日(14:00~16:30)、場所:大阪社会福祉研修情報センター、参加者:19名】

第一部では、永岡正己会長より、「大阪社会福祉史研究の動向と課題」としてご報告をいただいた。大阪と社会福祉史との関連についてご自身の研究経験を組み込みながらいくつかの論点を提示いただいたうえで、主な研究分野ごとの到達点と課題、隣接領域との関連や学際的取り組みの課題、研究会の今後の方向と当面のテーマについて提示いただき、今後の大阪社会福祉史研究をすすめる上での視点と研究会のあり方を検討する機会となった。その後の第二部では、総会として第一部をふまえた今後の研究会のあり方についての議論や会計報告などが行われ、活発に意見交換がなされた。

※報告者の所属はすべて報告当時のものです。

## 2016年度・2017年度 会計報告

ご報告が遅くなり大変申し訳ありません。2016年度、2017年度の研究会の会計は下図の通りです。2018年度の会計報告につきましては、次ページをご覧ください。

＜2016年度＞ 確定版			
収入		支出	
前年度繰越金	496,403	通信費	848
受取利子	44	消耗品費	4,899
今年度会費(8名分)	24,000	講師謝礼	4,644
次年度会費(2名分)	6,000	会場費	4,500
		次年度繰越金	511,556
合計	526,447	合計	526,447

※次年度繰越金には特別寄付金(「機関紙発行準備金」)366,341円を含む

＜2017年度＞ 確定版			
収入		支出	
前年度繰越金	511,556	通信費	5,968
受取利子	4	講師謝礼	6,588
今年度会費(10名分)	30,000	会場費	8,100
前年度会費(2名分)	6,000	雑費	6,228
その他	15,000	交通費補助	15,000
		その他	70,000
		次年度繰越金	450,676
合計	562,560	合計	562,560

※その他は、地域社会福祉史研究会連絡協議会会費送金及び返金分  
 ※交通費補助は、地域社会福祉史研究会連絡協議会出席に伴う交通費補助  
 ※次年度繰越金には特別寄付金(「機関誌発行準備金」)366,341円を含む

## 事務局からの連絡とお願い

## 事務局

〒556-0006  
大阪市浪速区  
日本橋東  
2-9-11

石井記念愛染園  
愛染橋保育園内

大阪社会福祉史研究会

TEL: 06-6632-5640  
FAX: 06-6632-5645  
MAIL: osaka.fukusi.rekisi  
@gmail.com

## 1. 会費納入について

当研究会は皆様の会費で成り立っています。ご協力お願い致します。

会費は1年間3000円となっております。

会費納入には以下の2つの方法があります。

- ①研究会に参加した際にお支払いいただく
- ②下記の口座へ振り込む

## 〈口座情報〉

ゆうちょ銀行

店名) 418 店番) 418

普通預金

口座番号) 0489232

口座名義) 大阪社会福祉史研究会

(オオサカシャカイフクシケンキュウカイ)

なお口座へ会費を振り込んでいただいた際には、事務局（岡本）までご連絡ください。よろしくお願ひします。

納付状況が不明の場合も一度下記までお問い合わせください。

連絡先：岡本周佳（E-mail: tikka0827@hotmail.co.jp）

## 2. 参加者の募集について

本研究会では多くの方にご報告もしくはご参加いただければと考えております。大阪の歴史（分野を問いません）にご興味・ご関心のある方がおられましたら、ぜひお声掛けいただければと思います。

## 2018年度 会計報告

〈2018年度〉

確定版

収入		支出	
前年度繰越金	450,676	謝礼	3,078
受取利子	4	雑費	4,455
今年度会費(10名分)	30,000	交通費補助	15,000
前年度会費(2名分)	6,000	その他	10,000
		会場使用料	1,300
		次年度繰越金	452,847
合計	486,680	合計	486,680

※その他は、地域社会福祉史研究会連絡協議会の年会費

※交通費補助は、地域社会福祉史研究会連絡協議会出席に伴う交通費補助

※次年度繰越金には特別寄付金(「機関誌発行準備金」)366,341円を含む

## 編集後記

vol.7の発行からずいぶんと間が空いてしまいましたこと、心よりおわび申し上げます。2016～2017年度は、証言シリーズとして多くの方からお話を伺うことができました。貴重なお話を研究会としてきちんと文字にして残す必要があり、現在計画中です。（岡本）